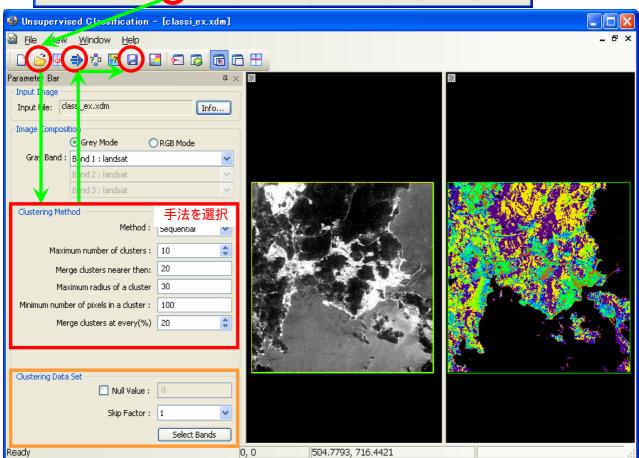


#### 画像処理 "Image Processing"の紹介:

分類、幾何補正、バンド間演算などラスタ画像を中心とした処理・解析をおこなうセクションです。

#### ・ 教師なし分類:





- · Image Composition欄で、読み込んだ画像をRGB表示に切り替えもできます。
- · Clustering method欄で、手法やパラメータなどの設定ができます。
- · Clustering Data Set欄で、処理対象のバンドの選択や、Null値(処理対象外値)の設定ができます。
- ・ 🔁 で、設定したパラメータから算出した統計値リストを確認できます。処理を実行する度に必ず表示されます。
- で、分類結果のピクセル数や面積を確認・保存したり、配色設定ができます。

# ・ 数師つき分類:

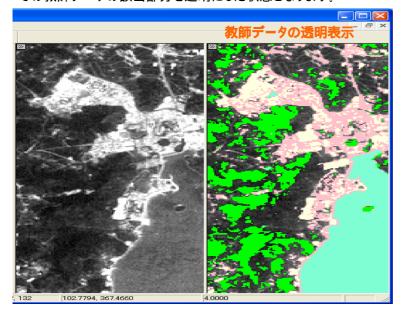


OK Cancel

で"Training Data Set"ウィンドウを表示し、New ROI でポリゴン・ポリラインを選択し、画像から教師データとなるエリアを描きます。ダブルクリックで決定し、"ROI Properties"ダイアログが現れます。必要な場合、そこで名前や色を入力して OK 。"Current ROIs"欄のリストに保存されます。これを必要な分、繰り返します。

対象画像がなんらかの投影情報を持っていて、それと重なる地域のベクタデータをお持ちの場合、そのベクタデータを読み込み、重ね、教師データとすることもできます。 New ROI から "Vector Selector"を選択し、利用します。 \* "Vector Selector"の操作は、2章「マスク」のB項で紹介しております。参照〈ださい。

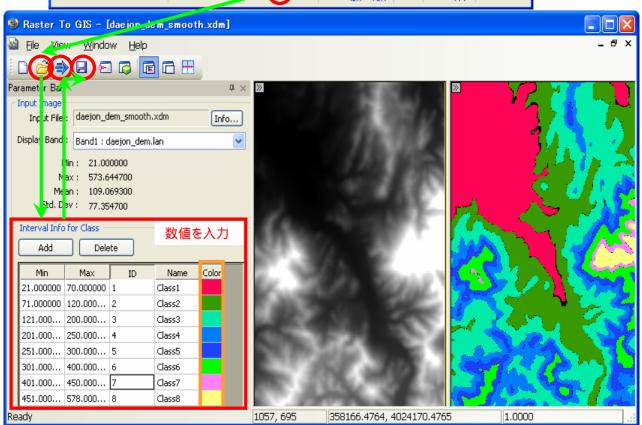
- ・続いて、"Current ROIs"欄のリストに保存されている教師データを選択し、Create Class から、"Class Property" を表示します。そこで、分類処理をおこなった際の色や名前を正式に決定し、ROI Listの該当する教師データにチェックを入れます。複数の教師データにチェック入れ、マージ(統合)することもできます。 OK を押すと、 "Current Class(es)"欄のリストに保存されます。これが分類処理した際の正式な色と名前となります。 これを必要な分、繰り返します。
- ・ "Classification Parameters" 枠内で、分類手法を設定できます。
- ・ "Supervised Classification"ウインドウの Select Bands から、処理対象のバンドの設定ができます。 特に設定しない場合は全バンドを対象としてます。
  - "Overlay Image"欄にチェックし、対象の教師データを選択してから処理を実行すると、結果画像がその教師データの該当部分を透明にした状態となります。



# ・ **画 再分類** (Reclass)∶

分類レベルと細かな数値範囲を指定し、特定の色で分類をおこないます。



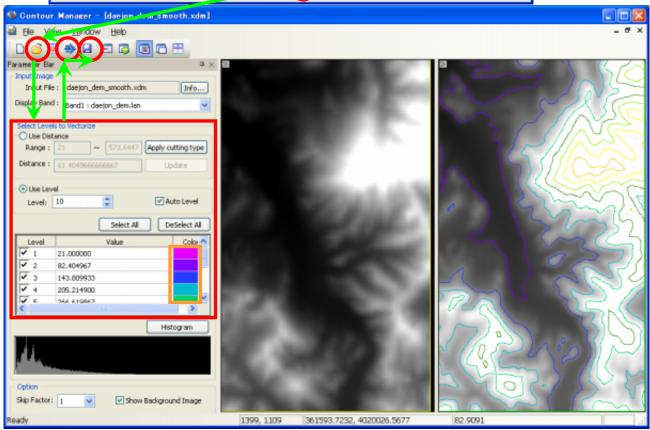


- ・ in からファイルを呼び出し、 Add から必要な分類レベルを追加し、"Min"と"Max"枠に数値を入力。 追加した分類レベルは、 Delete から削除もできます。
- ・ の"Color" 枠のパレットをクリックすると、色の変更ができます。
- ・ で処理実行し、 ご結果を保存します。

### ・ うスターからベクタ変換:

標高データや分類結果画像から、自動でコンターを発生させ、それをShapeやDXFに保存できます。 保存したベクタデータをマスク処理などに応用したり、Image Composerで多重表示できます。



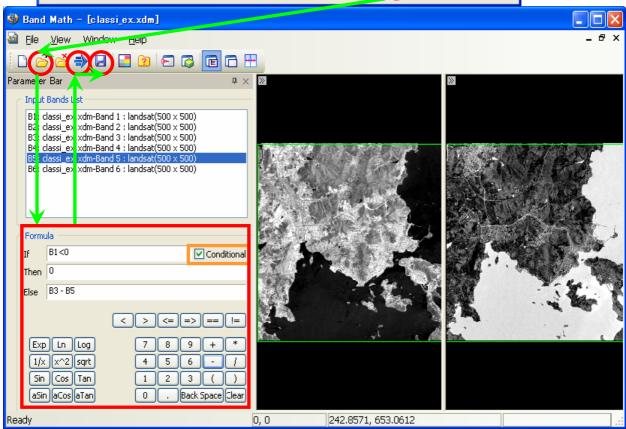


- - Select All から全選択もできます。 ᡨ で処理を実行します。
- ・ の"Color" 枠のパレットをクリックすると、色の変更ができます。
- ・"Use Distance" にチェックを入れ、コンターを指定した等間隔で発生さえることもできます。
- ・"Use Level" にチェックを入れ、発生させるコンターの数を設定できます。
- ・ 🔲 で"Vector Composer"を呼び出し、その中の 🔲 で結果を保存します。(4章参照)

# 

ファイル内のバンドに対し、数式計算をおこないます。





- ・ の"Conditional"にチェックをすると条件式できます。"If"欄に条件、"Then"にその結果を指定し、 同様にElse欄に数式を入力します。
- ・ 📦 で処理実行し、 길 で結果を保存します。